

もっと知りたい ふるさと

21

森將軍塚古墳と 三角縁神獸鏡

善光寺平を一望できる有明山の尾根に、長野県最大の「森將軍塚古墳」がある。今からおよそ一六五〇年ほど前に築造された、全長約一〇〇メートル、後円部の直径は四五メートルにも及ぶ、古墳時代前期の前方後円墳である。国の史跡であり、千曲市の誇る歴史的な財産である。

昭和四十三年に、石室の全面発掘調査をした結果、勾玉、管玉、劍等と共に県内唯一の「三角縁神獸鏡」の破片が出土した。残念ながら盗掘のため元号等が銘記された箇所は持ち去られ確認できない。しかし、「三角縁神獸鏡」が出土

したことは、「森將軍塚古墳」の被葬者は、大和王権と強いつながりがある強力な組織力を持つ指導者ということであり、高度な知識をもった技術者を使い、約一年半かけて古墳は造られた。副葬品からして、善光寺平一帯を治めた初めでの「科野のクニ」の王（有力者）ではないかと言われている。

「三角縁神獸鏡」は、邪馬台国の女王卑弥呼が、魏の国から授かった鏡だ」と当時の京都大学の小林教授が発表した。それは、魏国の元号・景初三年が銘記された鏡が発見されたからである。「女王卑弥呼」が魏の国洛陽の「明帝・曹叡」へ朝貢したのが二二九年、魏国の元号で言うところと景初三年となる。難升米、都市午利が奴婢（奴隸）十人、布等を持参し朝貢をした。魏国からのお礼に銅鏡百枚、金印等を授かり二四〇年の正始元年に帰国したと中国の古書三国志・魏書・東夷伝・倭人の条、略して「魏志倭人伝」に書かれている。

今年三月、奈良の黒塚古墳、箸墓古墳等を視察してきた。黒塚古墳は三十三面の「三角縁神獸鏡」が、棺の周りに置かれていた未盗掘の古墳である。箸墓古墳は「卑弥呼」の墓ではないかと言われる最古の前方後円墳である。近くには「邪馬台国」の地と言われる纏向遺跡がある。

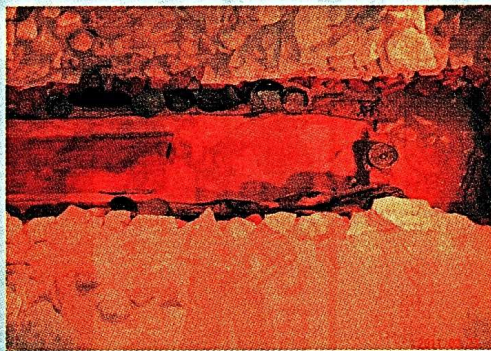
黒塚古墳から出土された三十三面の「三角縁神獸鏡」からは、元号が銘記された鏡は一枚もなかった。景初三年銘の鏡が出土した古墳は、鳥取県の神原神社古墳から景初三年銘の「三角縁神獸鏡」が一枚、大阪府の和泉黄金塚古墳からは景初三年銘の「平縁画文帯神獸鏡」が一枚出土した。

「三角縁神獸鏡」が全国で出土した枚数は、百枚どころか五百枚ちかくも出土している。魏国にならぬ元号が銘記された景初四年銘の鏡が京都府から出土した。「明帝・曹叡」は景初三年一月逝去し、翌年は正始元年と元号が改められ、景初四年はありえないからである。「卑弥呼」は現在、弥生時代の女王となっており、古墳からなぜ「三角縁神獸鏡」が出土するのか疑問とされてきた。

から木製品が発見され、「年輪年代測定法」で分析すると、この遺跡は半世紀以上は遡るといふ研究結果が出た。とすると、この遺跡は三世紀前半となり、「邪馬台国の女王卑弥呼」の時代は古墳時代に入ってしまうのである。「森將軍塚古墳」から出土した「三角縁神獸鏡」の破片から、「天王日月」の文字が読み取れる。京都府椿井大塚山古墳と岐阜県竜門



森將軍塚古墳の初日の出



天理市立黒塚古墳展示館内の堅穴石室

寺一号墳からも、同様の文字が確認できる鏡が出土している。その鏡は「獸文帯四神四獸鏡」と言われる。

更埴郷土を知る会 会員

千曲市八幡在住 鎌倉 治雄